

(様式7-2)

会派政務調査活動・先進地調査等 精算書

令和7年1月31日

三田市議会議長 福田 秀章 様

本会派(私)は、会派政務調査活動・先進地調査に要した費用の精算結果を下記のとおり報告します。

| | | | |
|----------------|---|--------|-------------------------|
| 会派名 | 市民とともに | 代表者 | |
| | | 議員名 | 橋本 維文 |
| 派遣者氏名 | 肥後淳三、山崎丈、大西憲司、橋本維文 | | |
| 視察先 | ① 千葉県木更津市役所 木更津市富士見 1-2-1 ② 千葉県大網白里市市役所 大網白里市大網 115-2 ③ 千葉県匝瑳市役所 匝瑳市八日市場ハ 793-2 | | |
| 調査事項 (調査目的) | ① オーガニックなまちづくりと学校給食への取組みについて ② デジタル博物館について ③ ゼロカーボンシティの取組み(ソーラーシェアリングの取組み) | | |
| 日時 | 2025年 1月 14日(火曜日) ~ 2025年 1月 16日(木曜日) | | |
| 支払金内訳 | 科目 | 支出額 | 摘要 |
| | 宿泊料 | 27,000 | 13,500円×2泊 |
| | 日当 | 9,000 | 3,000円/1日×3日 |
| | 鉄道賃 (モ/レール) | 33,150 | |
| | 航空賃 | | |
| | バス賃 | | |
| | 船賃 | | |
| | タクシー | | |
| | その他 | 2,268 | 手土産 3,024×3か所/4人=2,268円 |
| 合計 | 71,418 | | |
| 備考 | | | |

※100 km未満の距離における特急利用、タクシー利用の理由は備考欄に記入。

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入の上、押印してください。

個人支給の場合、会派名(無会派は記入不要)、議員名を記入の上、押印してください。

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

令和7年 1月31日

三田市議会議長 福田 秀章 様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

| 会 派 名 | 市民とともに | 代表者 | |
|---|---|-----|-------|
| | | 議員名 | 橋本 維文 |
| 派遣者氏名 | 肥後淳三、山崎丈、大西憲司、橋本維文 | | |
| 視察先及び調査事項 (調査目的) | ① 千葉県木更津市役所 木更津市富士見 1-2-1 オーガニックなまちづくりと学校給食への取組みについて ① 千葉県大網白里市市役所 大網白里市大綱 115-2 デジタル博物館について ② 千葉県匝瑳市役所 匝瑳市八日市場ハ 793-2 ゼロカーボンシティの取組み(ノーラーシェアリングの取組み) | | |
| 日 時 | 2025年 1月 14日(火曜日)～ 2025年 1月 16日(木曜日) | | |
| 視察先対応者 | ① 千葉県木更津市役所 議会事務局 (司会) 前田 様 ② 大網白里市市役所 議会事務局 事務局長 岡部 一男 様 ③ 千葉県匝瑳市役所 市議会 (司会) 川島 誠二 様 | | |
| (調査結果の概要及び所見) 別紙でも可 ・視察資料(木更津市、大網白里市、匝瑳市)は、山崎の報告書でご参照ください。 ・調査結果及び所見は、別紙1:木更津市、 別紙2:大網白里市、 別紙3:匝瑳市 に添付しています。 | | | |

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入の上、押印してください。

個人支給の場合、会派名(無会派は記入不要)、議員名を記入の上、押印してください。

視察先①：千葉県木更津市

日 時：1/15(水)10時～11時半

目 的：オーガニックなまちづくりの推進

(1) オーガニックなまちづくりについて

(オーガニックなまちづくり条例の推進について)

木更津市では、2016年3月市議会において、施政方針に「オーガニックなまちづくり」が新たなまちづくりの視点として掲げられる。

→人と自然が調和した持続可能な未来を創る「オーガニックなまちづくり」の推進

◆基本理念

「地域、社会、環境等に配慮し、主体的に行動しようとする人を育むこと」

「自然と共に発展する持続可能なまちの基盤を整備すること」

「多様なあり方を認め合い、支えあう、自立した地域社会の仕組みを構築すること」

◆具体的な取り組み内容・経過

・「木更津市の人と自然が調和した持続可能なまちづくりの推進に関する条例」

「木更津米を食べよう条例」制定（2017年）

・第1期「オーガニックなまちづくりアクションプラン」策定（2018年）

・専門家の技術指導の下、5人の生産者の協力で有機米の栽培スタート（2019年）

→2024年には、生産者21人に拡大、学校給食の88%に対応

・市立小中学校の学校給食に有機米を提供（2019年～）

・「SDGs未来都市」に選定される。（2023年）

・有害鳥獣対策として、食肉処理施設の整備・運営（2021年）

・循環型社会の構築に向けた資源循環の促進

→市内で排出されたペットボトルを確実に再生・流通（2022年～）

家庭用廃食油のリサイクル等（2023年～）

・脱炭素化に向けた公共施設への再生可能エネルギーの導入（2022年）

・「きさらづ地域循環共生圏」の創造に向けた意見交換会（2023年度10回開催）

テーマ：「里山の再生」「資源循環の促進」「食・有機農業」「再生可能エネルギー」「ブルーカーボン」

・有機農業を志す新規就農者への支援

(2) 学校給食への取り組みについて

導入経緯：市の施策であるオーガニックなまちづくりの一環として位置づけ

事業費：2024年度10,186千円（既提供米との差額を補填）

・第3子以降給食無償化（2023年～）

・生産者の顔が見える給食（生産者からのメッセージ、試食会等）

【視察を通じて】

「オーガニックなまちづくり」とは、単に、有機（オーガニック）米を生産し、学校給食に提供するだけでなく、リサイクル・再生可能エネルギー等の循環型社会の構築に向けた環境政策、新規就農者支援・有害鳥獣対策等の農業政策等、SDGs（持続可能な開発目標）と連動した内容であることを再認識できる機会でした。木更津市では基本理念を軸に、多岐にわたる取り組みを展開されています。三田市においても、問題提起・議論をし、実現可能なことから取り組みを進めていきたいと考えます。

視察先②：千葉県大網白里市

日時：1/15(水)14時～15時半

目的：館を持たない自治体が提案するデジタル博物館

◆経過

- 2011年4月 「大網白里町第5次総合計画」に「インターネット活用のデジタル博物館づくりを推進」と記載
- 2016年2月 デジタル博物館の企画・立案を開始
- 2018年2月 大網白里市デジタル博物館を公開（「大網白里史」、考古資料中心）
- 2019年3月 コンテンツを追加（美術品、民俗資料、地図等）
- 2020年3月 コンテンツを追加（郷土芸能記録保存映像等）
- 2022年3月 コンテンツを追加（指定文化財、古文書、動画等）
- 2023年3月 コンテンツを追加（子ども考古学教室）
- 2024年1月 デジタル博物館の設置及び管理に関する条例の制定

大網白里市には、博物館・資料館・美術館が無く、財政面・人員面から文化財を活用した施策に関して、閉塞感があった。全国でも数件で、先例事例となることを目指し、助成金を活用することで事業着手にこぎつけた。

◆コンセプト

「館を持たない自治体が提案する本格的デジタル博物館」

《博物館の役割》

「収集」＝「情報の集約」

「保存」＝「現状の記録・保存」

「調査・研究」＝「情報の整理と再分類・ストーリー化」

「展示」＝「情報の発信・公開」

◆活用状況

- ・市の概要等を英訳（国際交流、多文化共生）
- ・市内に残る郷土芸能のコンテンツ公開
- ・観光振興（市と市教委がコラボしてハイキングを企画）
- ・公式ツイッターによる自発的な情報発信
- ・学校教育との連携（授業、教職員研修、コロナ禍の休校期間での活用他）
- ・各種団体との連携（市指定文化財の保存団体、古文書管理団体、美術団体等）

【視察を通じて】

通常の「博物館」に比して、優れている要素があると感じました。

- ・手軽さ、時間・場所を問わず、見たいときに見ることができる
- ・3D画像により、展示物の周囲・中を見ることができる
- ・現物を見たい場合には、見ることもできる

学校教育との連携・活用は大変有効だと思います。

同様に市の博物館を有しない三田市において、事業として成り立つのか、議論する余地はあると思いました。

視察先③：千葉県匝瑳市

日時：1/16(木)10時～11時半

目的：ゼロカーボンシティの取組み（ソーラーシェアリング事業）

<市役所>

(1) 営農型ソーラーシェアリングの取組

- ・営農型太陽光発電とは
- ・匝瑳市（開畑地区）のソーラーシェアリングの状況
- ・農地と地域を支えるソーラーシェアリング
- ・村づくり基金を活用した取組み

(2) 脱炭素先行地域の取組

- ・脱炭素先行地域とは
- ・匝瑳市における脱炭素先行地域の取組

(3) 今後の課題

- ・事業の横展開
- ・新たな技術等の導入
- ・住民等の行動変容

<現地>

直接取組みをしている団体から説明

「市民エネルギーちば株式会社」「匝瑳未来株式会社」

- ・家畜の糞尿の捨て場、耕作放棄や産廃の捨て場になっていた土地を再生させた
- ・耕作委託金、地域基金の仕組みづくりで、従事者を定着

【視察を通じて】

「ソーラーシェアリング」は、「脱炭素の取組」という進まなければならない方向に向かって確実に進むためのツールであると同時に、耕地活用をはかり、農業者を定着させることを同時に有意義な取組みです。

三田に置き換えてみても、導入可能な余地があるのかを含めて、踏み込んだ検証をする値打ちはあります。農業施策に対して大きな可能性を秘めています。

【全体を通して】

共通して印象に残ったことは、それぞれの担当者が生き生きと説明をしてくれたことです。木更津市では、トップダウンで導入されたものですが、意義・目的をしっかりと職員と共有できているのだと思います。大網白里市では、学芸員が1人しかいないので、事業の継続のために、今後、人材育成が必須であると思いました。匝瑳市では、行政と民間が、同じ方向に向かっていくことを目の当たりにしました。